

	山梨大学 農学分野
学部等の教育研究 組織の名称	生命環境学部（第1年次:130） 大学院医学工学総合教育部（M:253 D:76）
沿 革	昭和24（1949）年 新制山梨大学設置 平成14（2002）年 山梨医科大学と統合し、山梨大学設置 平成15（2003）年 大学院医学系研究科と大学院工学研究科を改組し、大 学院医学工学総合教育部を設置 平成24（2012）年 生命環境学部設置
設置目的等	<p>山梨大学は、昭和24年に新制大学として発足以来、平成14年に全国に先駆けて山梨医科大学と統合し、教育人間科学部、工学部、医学部から成る国立大学法人として、高い専門性と倫理性を身に付け、地域の産業・文化・教育・医療の中核を担い、国際的にも活躍できる人材の育成にあたってきた。</p> <p>平成15年には医学・工学等の融合と協働による新しい教育研究を通じた人材育成を行うことを目的として大学院医学工学総合教育部を設置し、ワイン科学、流域環境科学、微生物バイオテクノロジー等の農学系を含む教育研究を実施している。</p> <p>一方、山梨県は果樹栽培が盛んな国内屈指の農業県であり、農業と生態系の保全、高付加価値農業の実現等、農業を成長産業とし持続社会の形成へ繋げる取組がなされているが、遊休農地の利用促進、産地間競争力向上、国際展開、地球温暖化に対応する品種改良等の課題を抱えており、それらの課題を解決し持続的地域社会の創出と発展に寄与できる農学系学部の設置がかねてから強く望まれてきた。</p> <p>このような背景のもと、平成24年に教育・研究機能強化のために教育人間科学部と工学部を改組するとともに、「持続的な食料の生産と供給による地域社会の繁栄を実現するために必要となる、生命科学、食物生産・加工、環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政に関し、広い視野を持つ人材を、自然と社会の共生科学に基づき養成する」ことを基本理念とする文理融合の農学系の生命環境学部を新設した。本学部は生命工学科、地域食物科学科、環境科学科、地域社会システム学科の4学科で構成している。</p>

強みや特色、
社会的な役割

山梨大学においては、地域の中核を担う人材、世界で活躍する人材の養成を通し、社会の発展に寄与することを目指し、教育、研究、社会貢献に取り組んできており、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。

- 特色ある文理融合教育を実施し、微生物・動物バイオテクノロジー、食物生産・加工及びワイン科学、環境評価・管理を基盤とする環境科学、そして地域経済・経営及び地域政策に関して広い視野と深い専門知識及び実践力を養うことにより、地域社会の持続的繁栄を担う人材育成の役割を果たす。国際流域環境科学分野やライフサイエンス分野等において、国際的視野と高い技術及び指導力を有し、イノベーション創出に貢献できる高度な研究能力を有する人材を育成する役割を果たす。
- ワイン科学特別教育プログラム及び「アジア域での流域総合水管理研究教育の展開」におけるグローバル人材育成教育の実績を生かすとともに、eラーニングやグループワーク等による主体的学習を取り入れた文理融合教育を推進することにより、地域のみならず我が国、ひいては世界の食料・環境問題解決に寄与でき、国際的に活躍できる農学系人材を育成する学部・大学院教育を目指して不断の改善・充実を図る。
- 医薬品、バイオ燃料、農産物の生産に資する「微生物バイオテクノロジー」、「体細胞クローン技術に基づく発生・再生医学」、果樹栽培・品種改良からワイン醸造まで取組む「ワイン科学」、持続的食料生産に不可欠な水資源及び周辺環境の保全・利用に取り組む「流域環境科学」等に関する高い研究実績を生かし、医学工学分野と連携した医工農融合分野の先端研究を推進し、地域社会の発展や我が国の農学の発展に寄与する。
- 関係自治体の農業及び環境政策審議会等への参画、6次産業活性化や環境保全等に係る産学官共同研究への参画など、地域社会に貢献してきた実績を生かし、山梨県をはじめとする周辺地域の農業、食品産業の振興、環境保全及び持続的に繁栄可能な社会の構築等に寄与する。また、山梨県の理科教育（高大接続教育）の推進及び教育の質向上・維持に貢献する。
- 山梨大学「ワイン人材生涯養成拠点」事業や「県民コミュニティーカレッジ」事業等により山梨県や首都圏の社会人に対しワイン科

	学や生命・食・環境・経営に関する授業、実習、講習会を実施してきた実績を生かし、農学系社会人の学び直しを推進し、地域の農業、食品産業の発展や環境教育に資する講習会等を開催する。
--	---